

「神を知ることと神に知られることがキリスト信仰の醍醐味」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

参照聖句

出エジプト 23:20

マラキ 3:1

イザヤ 42:1

列王下 1:8 エリヤ

序論

人が他者と親密な関係になるために必要なことは何か？と尋ねられたら…みなさんは何と応えますか。

- 1:一緒に過ごすこと、一緒に遊ぶこと、
- 2:一緒に仕事すること、
- 3:一緒にお喋りをする事。

“一緒”に！というのがキーワードだと思うのですが、
他者と親密になるためになぜ、一緒に〇〇が必要なのか。

それは一緒に居ると<相手を知り、相手に自分を知ってもらえるから>ではないでしょうか。

私たちが相手を知り、自らを知られるとき、あるいは互いに相手が自分を知ってくれていると実感するとき私たちは、初めて他者と親密になれます。この関係を personal な関係と言います。

永遠に、普遍的に生きて働かれる神との personal な関係は私たちクリスチャンの生きる希望、勇気の源です！

なるはず…です。

なるはず…と控えめに言う理由は、その幸いを知りながら私を含めた多くのクリスチャンが“神様を知る”ことと、“神様に自分が知られている”ことを疎かにしている現実があるからです。

そんなわけで、今朝は“神様を知ること”と“神様に私たちが知られていること”を知ることがいかに大切か！ということマルコの福音書1章に登場するバプテスマのヨハネの物語から学びたいと思います。願わくはこの学びを通じてお互いの信仰生活が刷新されたら！と思います。

朗読

「神の子イエス・キリストの福音の初め。預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。』」そのとおり、洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

マルコによる福音書 1:1-8 新共同訳

本論

1:1にある<神の子イエス・キリスト>という文言は、<イエス・キリストは神である>との意味ですが、この文言を”キリストは被造物の最高位の存在ではあるが神ではない”と解釈したのがアリウスという神学者です。ニケーアの宗教会議でアタナシウスと論争した天才神学者です。アリウスがイエス様を神ではないと主張した理由は、<イエスは神の子だからイエスには始まりがある、始まりがあるということは終わりがあり有限である、有限であるということは、永遠の存在ではない、だとするとイエスは神ではない！>との整合的な論理に裏付けられた結論の故でした。

このアリウスのイエス論に敢然と反論したのが、アタナシウスというアレクサンドリアの司教の付き人として宗教会議に参加していた若者です。アタナシウスは、<神の子イエス・キリストは父なる神と同質>だから～イエスは神だ！と主張して宗教会議の流れを変えた人物です。キリスト信仰は、このアタナシウスの神学によって現在も支えられているというのがオーソドックスなキリスト教会の見解ですが。

福音記者マルコは、旧約聖書のイザヤ書、出エジプト記、マラキ書から混合的に引用して神の子イエス・キリストをイスラエルの救い主として紹介しています。この救い主の到来をイスラエルの人々に告知したのが、バプテスマのヨハネです。ヨハネは列王下 1:8 に登場する預言者エリヤの再来として人々から尊敬を集めていた人物でしたが。

マルコの福音書1章によるとヨハネは、ラクダの毛ごろもを身にまとい、皮の帯を締め、野蜜(ナツメヤシの実)とイナゴを食料とし、世間と隔絶していた禁欲的生活を送っていたよう

です。おそらくヨハネはユダヤ教の律法を厳格に守るエッセネ派に属していたのでしょう。

そんなヨハネの使命は救い主、神の独り子イエス・キリストをイスラエルの人々が受け入れるための道を整えることでしたかわ、ヨハネは、救い主の到来の備えとして何をしたのか?!
それがマルコ 1:4~5 に記されていることです。

ヨハネは、彼を預言者エリヤの再来、あるいはマラキ以来の真の預言者として尊敬する人々に対して、〈罪の赦しを得させる悔い改めのバプテスマ〉を宣べ伝えました。正確に言うと、神の裁きを免れたいとユダヤ全土から集まった人々に罪を離れて神に立ち返るように命じてバプテスマを授けたのです。

このヨハネの働きとメッセージは何を物語っているのか。

それはヨハネは、神に遣わされた福音の使者でありながら、“主イエスがどのような方か”、“主イエスがもたらす罪の赦しの本質は何か”知らなかったと言う事実です。

別の言い方をすると、

ヨハネは主イエスを personal な意味で知らなかった、

すなわち主イエスと personal な関係になかったということです。

驚くべきことにヨハネと主イエスと親戚関係にあったにも関わらずです。

ルカによる福音書 1:36

私がこう申し上げる根拠は、

マルコ 1:7 のバプテスマのヨハネのイエス様についての証しにあります。

マルコによる福音書 1:7

「彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。」

ヨハネは自らと対比してイエス様を力と威厳に満ちた近寄り難い方として宣べ伝えていますが。しかし実際のイエス様はどのようなお方だったのでしょうか。

「イエスは、父がすべてを御自分の手にゆだねられたこと、また、御自分が神のもとから来て、神のもとに帰ろうとしていることを悟り、 食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。 それから、たらいに水をくんで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められた。」

ヨハネによる福音書 13:3-5 新共同訳

イエス様は、聖なる力と威厳に満ちた方義なる方です。しかしイエス様は、決して私たち罪人が近寄り難い方ではなく、むしろご自分から私たちに寄り添い私たちに触れ、私たちの罪

を自らの血潮で洗いよめてくださる憐み深いお方です。主イエスがそうなさるのは、主が私たちの罪の悲惨さを知っておられるからです。すなわち主イエスは人が自らの力、知恵、行いや功德で罪の滅びを免れることができない、どうしようもない状態にあるということを知っておられたのです。

ヨハネがもし今、申し上げた意味で主イエスを知り、主に自らが知られていることを知っていたなら、マルコ 1:7にあるような主イエスについての証しはしなかったでしょう。そして彼を預言者と慕う人々に辛辣な言葉を投げかけるようなことはしなかったと思います。

「そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな。言うておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。」

ルカによる福音書 3:7-14 新共同訳

主イエスは、私たちと personal な関係を知りたいと願っておられます。

それは私たちが主イエスを personal に知ることなしに、罪の赦しを体験できないからです。

罪の赦しとは、何か。

それはあなたと神の間にある全ての隔てが取り除かれ、あなたと神が永遠で親密な交わりを持てるようになることです。

私たちが主イエスと personal な関係を結ぶためには、どうしたら良いのでしょうか。何が必要なのでしょうか。

それは私たちの罪の赦しのために罪の贖いとなってくださったイエスを救い主として受け入れること、ただそれだけです。それ以上でも、それ以下でもありません。もし、私たちが主イエスを私たちの罪の赦しをもたらす方として受け入れるなら、私たちは主イエスと personal な関係を結び、主イエスの友とされ、主イエスにある神との親密な交わりに預かるのです。

ヨハネは、この幸いを知らなかった。
何故なら、ヨハネはイエスを personal な意味で知らなかったから。

ルカによる福音書 7:18-23 新共同訳

「ヨハネの弟子たちが、これらすべてのことについてヨハネに知らせた。そこで、ヨハネは弟子の中から二人を呼んで、主のもとに送り、こう言わせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」二人はイエスのもとに来て言った。「わたしたちは洗礼者ヨハネからの使いの者ですが、『来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか』とお尋ねするようにとのことです。」そのとき、イエスは病気や苦しみや悪霊に悩んでいる多くの人々をいやし、大勢の盲人を見えるようにしておられた。それで、二人にこうお答えになった。「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」

みなさん、私たちはイエス様と personal な関係にあるでしょうか。

もしあなたにその確信が無ければ、今朝、一緒に祈りませんか。

私が短くとりなしの祈りをしますので、私の祈りに同意なさるのであれば最後に私が祈る言葉にとアーメンと告白しませんか。あ～メンとは、真実です！という意味です。

祈り

イエス様、私はあなたが私を知り、私を深く憐んでくださっていることを今朝、改めて知りました。私は自らの力で自分を罪の滅びから救いだせないものです。イエス様、私を罪の滅びから救い出してください。そして私をあなたの友として受け入れてください。あなたは、あなたを求めるものを必ず受け入れてくださる方です。イエス様、私はあなたの恵みに信頼します。

主イエスのみ名によってお祈りします。 ア～メン。